

千葉県南部のシカに見られた寄生マダニ相

森 啓至, 藤曲 正登, 林 晃史

The Tick Fauna on Deer *Cervus nippon* in the
South of Chiba Prefecture

Keiji MORI, Masato FUJIMAGARI and Akifui HAYASHI

I はじめに

千葉県において、シカ *Cervus nippon* は、清澄山系を中心とする房総丘陵南部に生息している。

今回我々は、1988年10月、11月および1989年10月、11月に、勝浦市・鴨川市において、弊死直後のシカ体表上よりマダニを採集することができたので、その結果を報

告する。

II 採集方法

捕獲したシカは、現地において、直ちに、剥皮解体処理するが、弊死体から離脱するマダニ、頭部に寄生しているマダニは、その場で標本瓶に採集した。

写真1 弊死したシカの頭部



剥皮した皮は研究所に持ち帰り、その表面を精査し、寄生しているマダニを採集して同定に供した。

採集したマダニのうち、成虫は80%アルコールに浸漬し保存して、実体顕微鏡下で観察し、その形態学的な特徴により種類を同定した。

また、幼虫・若虫および成虫の一部はガム・クロラール液でホルスライドグラスに封入し、プレパラートとし、同様にして顕微鏡で形態学的に同定した。

III 結果

調査地域は、図1に示したように、鴨川市2か所・勝浦市1か所で行い、合計11頭のシカを得、その全ての個体からマダニを採集することが出来た。

写真2のように、マダニは耳介部のほか体表上の様々な箇所寄生していた。

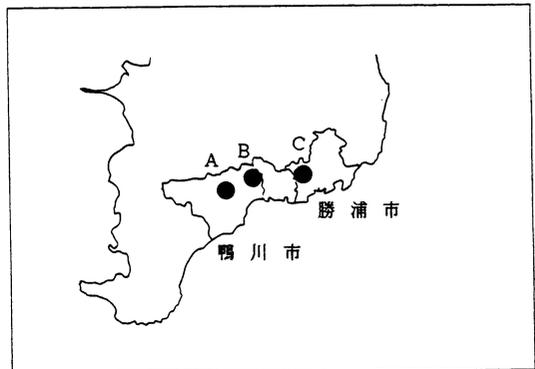


図1 シカの捕獲地域

写真2 マダニの寄生を受けた耳介部



(1) 寄生マダニの種類構成

今回得られたマダニは、表に示したように、*Haemaphysalis*属のみで、5種計7,347個体であった。

調査したシカ全てに見られたマダニはオトゲチマダニ *H. megaspinosa*のみで、採集数全体の78.1% (5,736個体) を占めた。

次いで多かったのは、キチマダニ *H. flava* の1,330個体 (18.1%)、ヒゲナガチマダニ *H. kitaokai* の194個体 (2.6%)、フタゲチマダニ *H. longicornis* の72個体 (0.9%)、ヤスチマダニ *H. ias* の15個体 (0.2%) の順であった。

表 シカ体表上から得られたマダニの種別・令構成別一覧

No. of <i>C. nippon</i>		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	TOTAL
<i>H. megaspinosa</i>	M	88	97	1	61	6	109	158	1,446	12	6	16	2,000
	F	23	81	2	28	1	38	44	407		1	4	629
	N	24	365	19			23	23	600		78	235	1,367
	L		883				2	13	416	2	90	334	1,740
Total		135	1,426	22	89	7	172	238	2,869	14	175	589	5,736
<i>H. flava</i>	M	45	42	3	2		4	31	85		1	1	214
	F	9	25		3		4	12	78			1	132
	N	31	422	20			1	5	53		11	23	566
	L		332					3	37		13	33	418
Total		85	821	23	5	0	9	51	253	0	25	58	1,330
<i>H. kitaokai</i>	M							5	82			6	93
	F		1					5	91	1	2	1	101
Total		0	1	0	0	0	0	10	173	1	2	7	194
<i>H. longicornis</i>	F							1					1
	N	1	13					2	2			2	20
	L		12	1				1	32			5	51
Total		1	25	1	0	0	0	4	34	0	0	7	72
<i>H. ias</i>	M	1	1										2
	L		13										13
Total		1	14		0	0	0	0	0	0	0	0	15
Total of ticks		222	2,287	46	94	7	181	303	3,329	15	202	661	7,347
collecting area		C	A	A	C		B	B	B	B	C	C	C
collecting year			1988					1989					

M : male, F : female, N : nymph, L : larva

(2) シカごとの寄生相

多いものでは、シカ 1 頭から3,329個体のマダニが得られたが、幼虫の割合が14.6%と、成虫の割合 (49.5%) に比べてかなり少なかった。

なお、この個体 (No.8) では、*H. ias*を除いた 4 種のマダニの寄生が見られた。

また、5 種全てのマダニの寄生を受けていたのはNo.2 の 1 頭のみであり、このシカは、2,287個体のマダニの寄生を受けていた。そのうち、成虫の割合が6.1%なのに、幼虫が54.2%を占め、No.8のシカに比べて幼虫の割合がかなり多かった。

図2に示したとおり、ほとんどのシカが複数種の寄生を受けていたのに、No.5のみ*H. megaspinosa* 1 種寄生だったが、このシカは、7 個体しかダニの寄生を受けていなかった。

また、*H. megaspinosa*の寄生率が、50%以下だったシカは、No.3 だけだったが、このシカは46個体のダニの寄生を受けていただけだった。

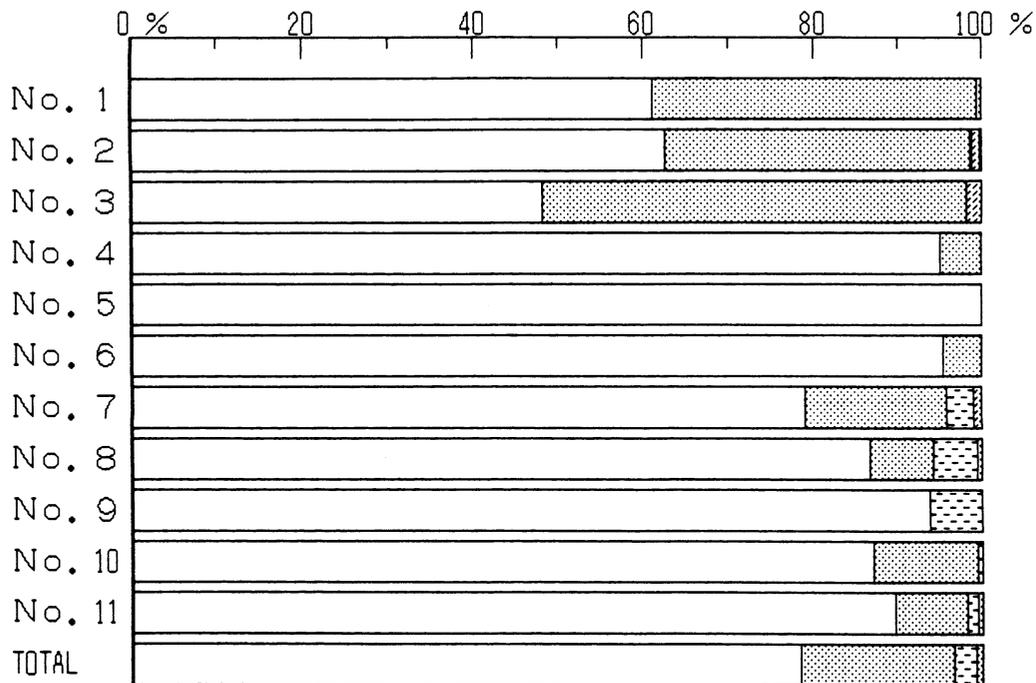
(3) 植生上との比較

今回シカを捕獲した地域において植生上のマダニ調査として、旗ざり法等を実施しているが、その調査で得られたマダニのうち、シカ体表上に見られなかった種は、ツリガネチマダニ*H. campanulata*、ヤマトマダニ*Ixodes ovatus*の 2 種であった。

参考文献

- 1) Yamaguti, N., Tipton, V. J., Keegan, H. & Toshioka, S. : Ticks of Japan, Korea, and the Ryukyu Islands. Brigham Young Univ. Sci. Bull., Biol. Ser. 15, 1-226, 1971.
- 2) 山口昇 : 日本産マダニ上科の検索, ダニ学の進歩。(佐々学, 青木淳一編) 451-472, 北隆館, 1978.
- 3) 山口昇, 北岡茂男 : ダニ類図鑑。マダニ科。(江原昭三編), 144-161, 全国農村教育協会, 1980.
- 4) 中村哲哉, 矢島朝彦 : 日本産マダニ科 (Family

図2 マダニの種類割合



H. megaspinosa *H. flava* *H. kitaokai* *H. longicornis* *H. ias*

Ixodidae) 中主として牛馬に寄生する種類の形態並分布について、獣疫調査所研究報告Vol.17, 133-184, 1937.

- 5) 北岡茂男：マダニ科チマダニ属の未成熟期の検索，家畜衛試研究報告Vol.88, 49-63, 1985.
- 6) 高田伸弘：病原マダニ類図譜，105-148, 金芳堂, 1990.
- 7) 中村哲哉，矢島朝彦：マダニ科 (Family Ixodid-

ae) 4種の幼ダニに就いて，獣疫調査所研究報告Vol.19, 34-39, 1942.

- 8) 北岡茂男，森井勤，藤崎幸蔵：放牧牛・寄生マダニ関係の成立についての一考察：大型野生動物，特に丹沢のシカとの関連において，家畜衛試研究報告Vol.70, 35-42, 1975.
- 9) 北岡茂男：大型野生動物とマダニ，柏崎補市立博物館報，No 4, 44-50, 1989.